

産廃処理の総合専門誌いんだすと

# INDUST

群桐エコロギ

2018 JUNE 6  
NO.368

安全 第一  
整



特集

高齢社会の廃棄物処理業を考える

連載

可燃ごみをエタノールに  
積水化学

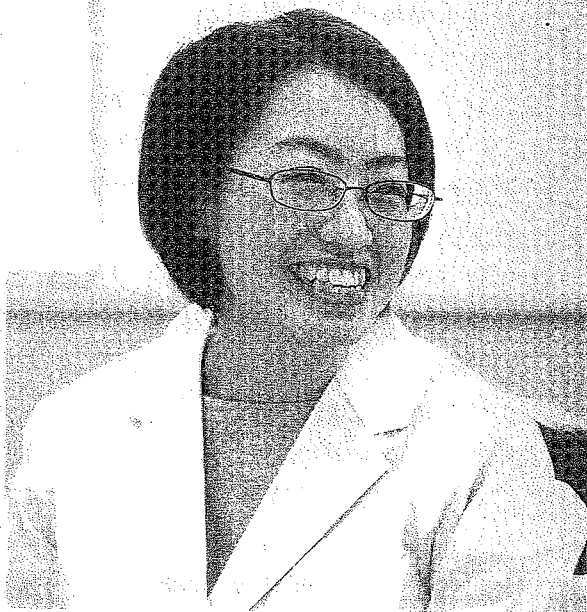
電子版も好評配信中!

電子版「いんだすと」には  
さまざまなメリットがあります。(目次に詳述)

福嶋 久代さん 群桐エココ株式会社 分析室

## 細やかな気遣いが大切

群桐エココ（群馬県太田市）は、群桐産業のグループ会社として2007年に設立。132<sup>トン</sup>/日の焼却溶融施設、192立方<sup>メートル</sup>/日の廃油リサイクル施設、42<sup>トン</sup>/日の固定床炉施設を保有し、廃棄物の適正処理と並行して再生油や溶融スラグの製造など廃棄物のリサイクル事業を拡大している環境産業企業だ。今回は廃棄物処理後の残渣物を製品として再利用するための基準を満たすか否かを判定する分析業務を担当する福嶋久代さんからサンパイ女子の心得などについて聞いた。



読書好きの福嶋さん。群馬県出身の作家の作品も読んでいるという

——中途入社とのことですが前職はどのような分野でしたか。

2年半、独立行政法人の研究機関で分析の仕事を経験し、平成26年に入社。今年で入社5年目になります。前職を退職後、地元の太田市に戻っていた時に父親から当社が募集していることを聞きました。群桐産業は地元では有名で、幼少の頃から工場があったことは認識していましたし、「ごみ処理産業は無くならない。将来性がある仕事」という父の助言もあり応募しました。

——溶融スラグの販売を強化されていると聞きました。

現在、当社ではサーブルオールという商品名でスラグの販売を行っています。これまで近隣の県にも使用していただいておりますが、群馬県内での採用が少ないのが残念です。浄化槽などの埋設物の埋戻し時に使用できるほか、太陽光パネルの設置場所に防草材としての需要があるのですが、商品の素材が廃棄物、しかも産廃のため敬遠されがちです。さらに弊社以外の一部のスラグで製品に問題があった経緯などもあり、公共利用に行政が消

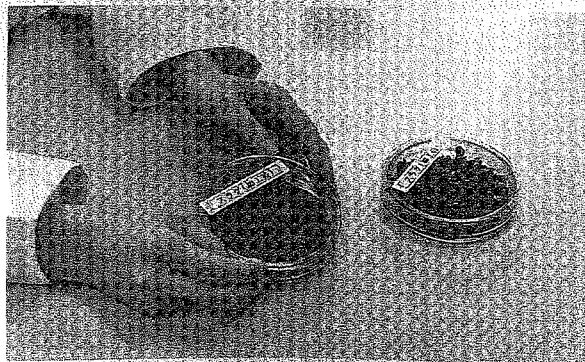
極的なのが課題です。また、運搬費が障壁になっています。東北方面の自治体はスラグの利用を促していると聞きますが、価格が安い反面、需要先が遠方になると導入メリットに影響が出てきます。

——前職を含めて分析業務に就いてしばらく経過しましたが新たに産廃の分析業務に携われる方にメッセージをお願いします。

分析業務のように細かい仕事やルーチンワーク作業は女性の方が得意のようです。前職の研究機関にいたときも、分析にかかる前処理などはパートの女性が担当することが多かったです。いずれにしても仕事はやってみないとわからないのですが、私の経験から言えば廃棄物処理事業に関わるならば単純な作業であっても、危険を伴う事も多いので、細やかな気遣いが大切だと思います。一方で採用する側への要望になりますが、女性の立場から見て職場が綺麗な方が良いと思います。当社では全く問題がないのですが、まだ、女性が敬遠するような職場があるようです。特に女性においては敏感です。

——気を張る仕事だと思いますが、どのように息抜きをされていますか。

読書と映画鑑賞を楽しんでいます。最近観た映画は『空海—KU-KAI— 美しき王妃の謎』です。書籍は基本的に仕事と関係ないものを読んでいるのですが、ファンタジー系を好んで読みます。最近ではNHKでもドラマ化された『精霊の守り人』を読みました。同書の著者の土橋菜穂子さんの作品が好きで一通り読んでいます。



販売強化しているサーブルオール